



とびきりのサプライズで送り出そう

あなたは今までどんなサプライズをしたことがありますか？プレゼントを渡す、隠れて出てきてびっくりさせる…などなど。サプライズはする側もされる側もワクワクし、お互いの距離が縮まります。

友人から留学すると聞いた時、激励の気持ちをサプライズで伝えたいと思いフラッシュモブをやろうと決めました。フラッシュモブとは、通りすがりを装って集まり、前触れなく突如としてパフォーマンスを行い、目的を達成するとすぐに解散する行為のことです。友人は楽しいことが好きなので、きっと喜んでもらえるだろう！と期待で胸が膨らみました。思い立ってからはすぐ周りに声をかけ、手伝ってもらえないか交渉していききました。

「T-ACTってこんなこともできるんだね」

しかし、思い立ったのは6月中旬。夏休みに入る前にやらなければ人が集まらないし、友人がつくばから去るのは7月下旬。そう考えると本番までに1ヶ月もないことがわかりました。さらに、場所申請や機材申請もしないといけない課題もできました。「学校は個人にも貸してくれるのか？」とか、「申請するときこの内容を言ったらどんな反応をされるのだろう…。」といった疑問や不安がでてきました。誰に相談したらいいんだろうと悩んでいた時に、一緒に企画していた先輩が「T-ACTを使ってみたら？」とアドバイスをくれました。これがT-ACTを利用する事になったきっかけです。

不安を抱きながらT-ACTに相談をしたら、これがびっくり。スタッフさんは一度も私がやりたいと思っていることを否定せず、実現するために必要なプロセスやクリアすべき問題を教えてくださり、前向きに協力してくれたのです。いただいたアドバイスを元にして、無事企画として受理されました。このことを他の人に話すともみんな「T-ACTってこんなこともできるんだね」と口をそろえて言います。私もそう思いました(笑)。

怒涛の計画段階

本番までに築いてきた計画の轍を見てみると、決して順調に進んでいたわけではありません。例えば、リハーサルを急に行うことにしたり、計画書の改訂を何度もして、何が正しい流れなのかを正確に理解してもらえなかったり…と、今思い返しても猛省すべきことがたくさんありました。四苦八苦しながらも多くの人に協力してもらい、安全対策や機材関係の課題をクリアし、サプライズの内容が形づいてい

きました。気がつけば協力してくれる人は60人を超えていました。

いざ本番！

本番。「GO!!!!」と叫びながら図書館下から武装コスプレをした協力者(第四学群)が突撃してくるところからパフォーマンスが始まりました。「え!?え!?!」と困惑する友人を第四学群が石の広場からパフォーマンス場までエスコートし、第四学群の中に隠れていた先輩が歌い出す。その後徐々に学類の友だちが歌に参加しだし、人が増えていきます。最後には友人と同じサークルの人たちが登場し、ダンスを踊りました。友人は終始驚きっぱなしで、しかし笑顔で楽しんでくれました。

パフォーマンスが終わった後、友人は涙ぐみながら「ありがとう」と言ってくれました。参加者の人たちも「楽しかった、ありがとう！」と声をかけてくれたり、そのサプライズを見ていた先輩や他の友だちからも「すごいね」と言ってもらえました。友人の驚く顔、パフォーマーの笑顔、立ち止まって見てくれる観客…その様子を見て私は心からやってよかったと思いました。

「やってみたい！」から「やってよかった！」へ

協力者のほとんどが友人と縁がある人で、中には私は知らないという人もたくさんいました。なので正直不安なところもあったのですが、絶対やるんだ！という強い気持ちで突っ走ってきました。そして協力してくれた同期や先輩には心から感謝をしています。

盛大なサプライズをやってみたい人やフラッシュモブをやってみたい人もこの中にはいるかもしれませんが、フラッシュモブじゃなくても何でもいいです。やりたいことを実現するには、すぐに諦めないで具体的な一歩を重ねていくことが大切なのではないでしょうか。これを読んでいる人の中の「やってみたい」ということが一つでも多く「やってよかった」と思えることに繋がれば嬉しいです。



togashismのメンバー全員で記念撮影